

園の当面の課題と取組

本年のお花見会は4月3日（日）に開催され、昨年とはうって変わった好天の下、桜は満開、各種の出店も大賑わいでした。利用者・保護者の皆さんや地域の方にも大いに楽しんでいただけたものと思います。

南門から涼山・明星寮まで園内を長さ約1キロに渡って貫くメインストリートの両側の桜並木は園のシンボルであり、地域のお花見の名所になっています。桜の植樹は昭和24年から始まり古いものでは樹齢70年になります。園では、2000年から翌年にかけて、ミレニアム及び創立60周年記念として6種類の桜の苗木300本余を新たに植え、現在では500本以上の桜が咲き誇っています。今後とも剪定等手入れを怠らず後世に伝えていきます。

昨年の就任時に課題の第1として挙げたのが高齢化、障害の重度化への対応でした。園では、既存寮の老朽化もあり29年度末までに男子4寮を休止し、男女各2寮を重度高齢者寮とする。この間、新規入所を停止して女子1寮を男子寮に変更する、という取組みを進めています。昨年度は1寮を休止、男子1寮を重度高齢者寮とし、介護機器を導入、二人夜勤体制としました。今年度は10月に1寮を休止、男子1寮を重度高齢者寮とする予定です。

重度高齢者寮とはいっても基本は生活寮です。寮で生活が困難になった利用者さんは介護保険施設への移行が必要になるため、介護認定申請を進めています。昨年度は8名の利用者の方が特養に移られました。4月からは理学療法士も職員に加わり、リハビリや筋力の維持・低下予防の要望に応じていきます。

第2の人材育成ですが、今年度の目標ではこれに人材確保を加えました。職員採用は事業団が一括して行っていますが福祉職の採用は非常に厳しい状況にあります。昨年度も学校訪問をしてPRに努めましたが、今年は新規作成した園の紹介DVDを携えて近隣の大学や養成施設を回り、求人活動を強化します。人材育成もこれまでの研修をさらに充実させるとともに、地域の医療機関等が主催する勉強会にも積極的に参加して、職員の自己研鑽意欲を高めていきます。

第3の園の今後の方向性ですが、検討が深まったといえる状況には至りませんでした。指定管理から民間移譲へという方針には変更がありませんので、昨年度から自主運営を始めた日野療護園を視察して、コスト意識を肌身に感じてきました。今年度は、仮に園が現状のまま自主運営に移行した場合にはどのような収支が見込まれるか、といった試算をしてみたいと考えています。

児童寮の過年令児の解消期限も2年後に迫り、一層の取組み強化が求められます。

今年度も利用者の皆さんの安全と安心を第一に、楽しく充実した生活が送れるような支援を心掛けてまいります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

園長 吉富哲郎